

従業員の方々も!!

インターネットセミナー・オンデマンド

700タイトル以上のセミナーが無料でご覧いただけます。
 〈毎月2タイトル以上のセミナーを新規で追加!〉

インターネットでセミナー映像（一般経営、労務、経理、人材育成、パソコン研修）がインターネット環境があれば何時でも何処でも好きなだけ視聴することができるサービスです。

会員限定



ID・パスワードがご不明の場合はこちらから再発行できます▶

今月のおすすめ

【お問合せ】 中小企業振興部 TEL 025-290-4212 (直通)

経営環境の変化をチャンスに! 戦略とは？
 中小企業を成長させる
 「金利復活」、「物価上昇」、「採用難」十数年ぶりに企業の「外部環境」が大きく変わろうとしています。この3つの変化に必要な対策と経営戦略を4つご紹介いたします。中小企業ならではの強みを活かして事業環境の変化をチャンスに変えましょう!

(にしかわ やすし)
 中小企業診断士 経営コンサルタント **西川 靖志**

健康になる技術 エビデンスに基づく健康習慣の作り方
 公衆衛生学とは「みんなの健康」を守るために地域社会の努力を通して、疾病予防、寿命延長、身体的・精神的健康の増進をはかる科学、技術です。いわゆる医学が診断と治療に重点を置いているのに対して、公衆衛生学は予防に重点を置いています。本セミナーでは科学的根拠にもとづく健康的な暮らし方を提案します。

パブリックヘルスストラテジスト (はやし はなえ)
 公衆衛生学者 株式会社代表取締役 **林 英恵**

2ドア軽自動車地域最安値

24時間 **2,200円** 24時間
 1週間 8,580円〜 1ヶ月 27,280円〜

買うより借りる **ガッツ**でしょ!
ガッツレンタカー 新潟駅前店
 TEL: 025-256-8520 FAX: 025-256-8325
 新潟市中央区明石 1-2-10 コーポ明石1F
<https://guts-rentacar.com/>

メンテナンス不要・保険付き・税込

会社の福利厚生を応援します

新潟市が出資している法人です。
 従業員1人当たり月800円で、充実した福利厚生を実現!

会員募集中!

主な事業：慶弔給付、健康維持増進、自己啓発援助、余暇活動援助ほか

愛称 **ニピイ**

詳しいサービス内容はインターネットで

公益財団法人 **新潟市勤労者福祉サービスセンター**
 新潟市中央区東中通1-86-51 新潟東中通ビル5F
 電話(025)201-6113 <https://www.nipy.jp/>

『認定支援機関』として新潟の企業を応援します!
 詳しくはこちらへ → <https://www.ogawakaikei.co.jp/>
 (本店) 新潟市東区豊2-6-52 TEL 025-271-2212

税理士法人 小川会計	株式会社 小川会計 コンサルティング	社会保険労務士法人 KBS
●法人税務～相続まで総合支援 ●事業承継とコロナ対策支援	●経営計画策定・モニタリング支援 ●認定支援機関補助金申請	●人事・労務相談 ●就業規則・助成金申請

2024年問題と2025年問題、 ピンチをチャンスに変えられるか

能登半島地震で被害に遭われた皆さまにお見舞い申し上げます。

波乱の幕開けとなった今年、働き方改革に端を発した2024年問題がクローズアップされています。特に経済への影響が大きいと考えられている物流関係について、小売業界の人からは悲壮な声が聞こえてきます。例えば東京都市部に売り場を持つお店なら、これまで注文後翌日の午前中に届いていたものが翌々に届くかどうか、という状況になりそうです。冷凍・冷蔵技術が進化している魚介類はまだしも、果実や野菜などでは、鮮度が必要なビジネスは成立しにくくなるようです。

新たに生じる時間差は、業種・業態によってはビジネスモデルの変革を迫ります。近年コンビニチェーンが店頭で調理したものを多く提供しているのは、セントラルキッチンから調理済み商品を提供する物流の仕組みが今後維持できなくなることを見越しています。

一方で、消費者から見ればつくりたてがコンビニで買えるのは、価値が向上したともいえます。また、一次産品を都市部に提供していた地方から見れば、本当に鮮度の良いおいしいものは地方を訪ねて味わうしかないことを、逆に人を呼び寄せるチャンスだと捉えることもできます。みんなに逆風が吹くときは、新たな挑戦や知恵を出したものが抜け駆けをするチャンスだともいえるのです。

来たる2025年には人口が多い団塊の世代が75歳以上になる、2025年問題が待ち受けています。働き手が減り、社会負担が増え、経済全体が弱体化する要因になると考えられています。年齢構成

の話なので、法の施行による2024年問題とは違って変化は緩やかに起きます。

先日とある地方の工務店から、高齢者が資産を使って、残された家族のためにコンパクトで利便性の高い住宅を建てるケースが増えているという話を聞きました。平屋のバリアフリーで、身体能力が衰えてきても快適に暮らせるようなサイズと設備を備えたものが望まれるそうです。これまでのファミリーが住宅を買う・建てるのとは全く違う市場の出現とも捉えられます。おそらくさまざまな分野で、これまでは全く必要とされなかった新しいシニア向けのニーズが発生するのだと思います。

過疎と高齢化は地方がより進んでいますから、市場構造の変化は地方で先に起こり、シニア向けの新しい商品は地方の中小事業者から生まれるのかもしれませんが。そんなことを感じさせる事例の一つに、高知県の老舗乳業メーカーが発売した、とろみ付きミルクがあります。80~90歳をターゲットに誤嚥(ごえん)を防ぐため、あらかじめ適量なとろみを付けています。牛乳にとろみを付けるための添加剤はこれまでもありましたが、最初から高齢者向けと割り切ってとろみを付けたミルクは無かったようです。これは高齢化に直面する地方ならではの商品開発。このようにピンチはチャンスに変わる可能性も感じられます。

日経BP総合研究所 上席研究員
渡辺 和博



◇渡辺 和博／わたなべ・かずひろ

日経BP総合研究所 上席研究員。1986年筑波大学大学院理工学研究科修士課程修了。同年日本経済新聞社入社。IT分野、経営分野、コンシューマ分野の専門誌編集部を経て現職。全国の自治体・商工会議所などで地域活性化や名産品開発のコンサルティング、講演を実施。消費者起点をテーマにヒット商品育成を支援している。著書に『地方発ヒットを生む 逆算発想のものづくり』（日経BP社）。